松阪市地域包括ケア推進のための　第 14 回　多職種勉強会

“もしも”に備える　多職種連携

～あわてない支援のための日ごろの取り組み～

令和３年８月 26 日(木)オンライン開催

松阪市では、介護と医療に関わる様々な職種の方たちが顔の見える関係を深め、地域包括ケアを推進していこうと、平成 26 年より勉強会を開催しています。

第 14 回目の今回は、家庭内での突然の負傷や意識喪失、そして看取りの場面など“もしも”の場面に備えて、医療や介護の専門職がどのような取り組みを行っているか、事例など通して学ぶ機会を設けました。

尚、今回も新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンライン開催としました。

〔話題提供〕

医療法人　西井医院	院　長	西井 義典　先生
松阪社協松阪支所訪問介護事業所	管理者	大仲 久美　氏
	サービス提供責任者	迫間 栄子　氏
ヘルパーステーションアリス	管理者	小森 貴美子　氏

◎　西井先生からは看取りとはどういうことか、介護施設における取り組みの実態など、資料を使用して詳細にご紹介いただきました。また、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、面会やつきそいなどに制限が生じていることから、医師や施設職員とご家族とのコミュニケーションをより丁寧に行う必要があることなどもお話いただきました。

◎　大仲さん、迫間さん、小森さんからは、事例を通して、ご本人やご家族との関わりや多職種での連携がスムーズになるよう、訪問介護事業所としてどのような工夫や心がまえを持って、日々の支援に臨んでおられるかをご紹介いただきました。また、努力や工夫があっても、必ずしもうまくいくことばかりではないこともお伝えいただきました。

◎　どんな場面であっても、ご本人やご家族、関係者、関わる専門職同士が、日ごろからどのようなコミュニケーションができているか、さまざまな未来を想定して物理的にも心理的にも準備ができているか、がポイントになるということを再確認できました。

参加者の感想（アンケートより原文のまま）

西井先生の「看取り」とは亡くなる時だけではないというお話が印象に残りました。〔薬剤師〕

リハビリ職として利用者の方と訓練中にお話をする機会があります。その時にご本人がどのようなお考えをお持ちなのか、価値観を尊重した言葉がけや接し方はどうすればよいかを今一度考えて向き合いたいと思います。その上でご家族や関係者との多職種連携、多事業所連携に向けて発信と受信に前のめりで取り組んでいきたいと思います。〔言語聴覚士〕

「看取りに備える」終末期をどこでむかえるかが、たいせつ。御本人の意思を確認しておくこと大事であること。デイにおいても必要なことではないかと思う。〔看護師〕

ヘルパーさんの事例から、改めて多職種連携の大切さを感じました。日頃から話しやすい関係を作っていきたいと思いました。〔介護支援専門員〕

最前線で支援を行っている各専門職の方々の講義を聞いていて、利用者の方を支えたいという気持ちが言葉一つ一つの重みによって感じたのが印象に残っています。
支援を行う上で大切なこととして、支援をする側の姿勢であったり、質の高い支援を各専門職が行えるよう各自が自己研鑽をするのが大切だと感じました。それが連携、情報共有という所の質も上がっていくのではないかと思います。質問にもありましたが、いつ急な対応を迫られるかわからない時が多々あります。その為にも今回の講義で大切だと感じたことを何時にも実施出来るよう、日々の業務に取り組んでいきたいと思います。〔介護職〕

◎松阪地域の地域包括ケア推進のため、これからもご理解・ご協力を
よろしくお願いいたします。

事務局：松阪地域 在宅医療・介護連携拠点 ☎ 25-3070 FAX 25-3071
松阪市健康福祉部高齢者支援課 ☎ 53-4099 FAX 26-4035